

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h3>1 一人一人の児童生徒の尊重</h3> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h3>2 友達への思いやり</h3> <p>0</p>	<h3>3 道徳・心の教育の充実</h3> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>【学校から】一人一人の児童生徒の尊重については、保護者、児童、教職員それぞれの「4」「3」の数値が昨年度よりも上昇しており、中でも児童の数値は20%近い。道徳の授業を要とした道徳教育の充実に向け、道徳教育推進教師を中心にして、授業参観時の道徳の授業の公開や、道徳の授業に関する紙面での子どもたちの変容等をお伝えすることができた。しかしながら、3の道徳・心の教育の充実については昨年度と比較すると「4」「3」の数値が昨年度よりも低くなっている。各学級の取組の様子について、学級通信や学校HPを活用し更にお伝えし、道徳教育や体験活動の充実に図り、「豊かな心」の育成を充実させていきたい。</p>		

②確かな学力を育む教育の推進

<h3>4 意欲的な学習態度</h3> <p>0</p>	<h3>5 授業力向上</h3> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h3>6 ICT活用</h3> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>5の授業力向上について保護者、児童、教職員全てにおいて「4」「3」の割合が昨年度より、上昇している。主体的・対話的で深い学びについて、校内研修を中心に3つのポイント（①めあて②対話③振り返り）を丁寧に行ってきた。子どもたちの対話を充実させることで、授業の活性化を図ることができた。さらに、ICT活用については、教職員の「4」の割合が8割を超えている。この結果よりICT機器の活用が定着しており、教職員一人一人のスキルも高まってきているといえる。効果的な活用については更にICT推進リーダーを中心に、さらに研修の充実に図っていく。</p>		

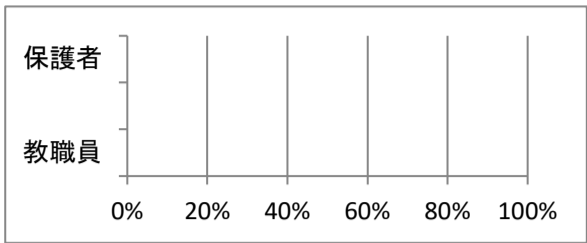
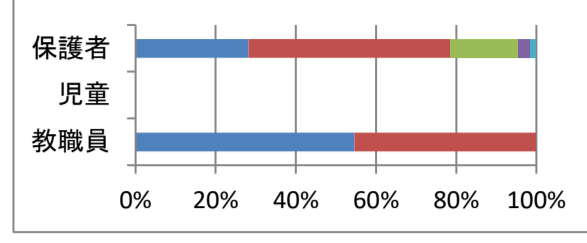
③健やかな体を育む教育の推進

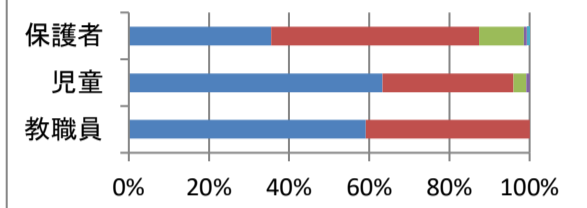
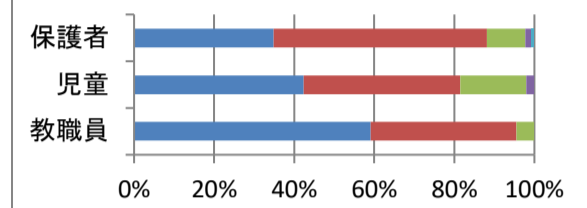
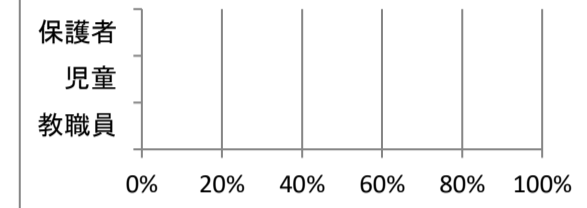
<h3>7 健康づくり</h3> <p>0</p>	<h3>8 児童生徒理解</h3> <p>0</p>
---------------------------	----------------------------

<h2 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h2> <h3>9 いじめや問題への対応</h3> <p>0</p>	<h2 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h2> <h3>10 学校の支援体制</h3> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<h3>11 共生社会を担う人材の育成</h3> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>	
<p>【学校から】学校の支援体制、共生社会を担う人材の育成について、保護者からの無回答が散見された。これについては学校からの発信が不十分だったと考えられる。今年度は特別支援教育コーディネーターを中心に、各学年からの情報収集や共通理解、定期的な校内支援委員会の開催を行い、特別支援教育の充実に図ってきた。学校での取組の様子を十分に伝えられなかったことが、教職員と保護者の意識の温度差に現れていると考えられる。この結果に真摯に向き合い、学校の取組の様子を機会を捉えて伝えていきたい。</p>	

<h2 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h2> <h3>12 安全と事故防止</h3> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<h2 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h2> <h3>13 施設・設備の安全管理</h3> <p>0</p>
<p>【学校から】昨年度と比べ、保護者、児童、教職員の全てにおいて「4」の占める割合が上昇している。安全点検後の危険箇所の改修・改善のスピードや、チームズ等を使用した安全行動の喚起を行った結果と考えられる。</p>	

②最適な学習環境の整備

14 教育方針・目標の理解	15 家庭や地域との連携協力
<p>0</p> 	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p> 
<p>【学校から】コロナ禍の中で、制限される活動も多かったものの、地域との連携は行事のスリム化や安全面を十分に配慮した中で行い、地域とのつながりを持続することができた。授業参観、学級懇談会を通して子どもたちの頑張りや変容をお伝えする場を設けることができたが、PTA活動をはじめとする共に活動する場面を設けることができなかつた。タブレット端末等を活用した場の工夫を模索していきたい。</p>	

0		
16 1	17 2	18 3
<p>d学校は、自分も周りも大切にすることを心を持った児童の育成に取り組んでいますか。</p>	<p>d学校は、授業の中で、友達の意見を聞き、自分の思いや考えを言える児童の育成に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>d</p>
		
<p>【学校から】自分も周りも大切にすることを心を持った児童の育成には、「4」「3」の割合がそれぞれ80%を超えている。人権が尊重される授業づくりの視点として、教職員の児童の呼称の仕方、声かけをはじめ、承認や賞賛、励ましの言葉や、発言できる雰囲気づくりなど、指示的風土を醸成する学級づくりを教職員が授業改善の一つとして取り組んできた成果と考える。しかし、授業の中で友達の意見を聞き、自分の思いや考えを言える問いについては、「1」の回答も見られるため、個に応じた改善課題や改善方法について改善し人権が尊重され授業づくりを充実させたい。</p>		

来年度の具体的な取り組みについて	
<p>○学校経営方針について、PTA総会や役員会、学校だよりやホームページ等でお知らせし、学年だよりや学級だより等でさらに子どもたちの変容を伝えていく。</p> <p>○これまでの週時程の抜本的な見直しを行い、1時間目の授業開始を早め、全体的に午後の放課の時間を確保する。これにより、児童の下校時刻を早めることで、不審者事案への対処及び、教職員の働き方改革を行い授業研究の時間を確保することで、授業力向上、学力控向上を図る。</p> <p>○PTA活動のスリム化を行い、誰にとっても参加しやすい活動体制を提案する。</p> <p>○学校支援コーディネーターや学校評議員さん方と相談をし、地域役員の高齢化に向け、地域人材の発掘を行う。</p> <p>○本校は、江津湖、熊本市動植物園など熊本市を代表する名所や施設が点在している。水資源に恵まれ、地域では自噴している場所もあり、地域の宝である。この地域の持つ良さを中心としたカリキュラムマネジメントを行い、全学年で体系的な学習を進める。</p> <p>○コロナ禍のような予測困難な、変化の激しい時代においては、自ら学び続ける力が大切であり、他と関わりながら未来を創造していかなければならない。よって「感謝と思いやりにあふれ、粘り強く、主体的に考え行動する児童の育成」を来年度も教育目標とし、夢に実現に向けた子どもの育成を目指す。</p>	

学校関係者評価	
<p>○子どもたちの挨拶の様子がとてもよい。自分たちから挨拶をし、学校の様子などについても話をしてくれるのでとても嬉しく思う。</p> <p>○学校評価の結果からも、子どもたちの自己肯定感が高まっている様子が窺える。</p> <p>○授業の様子を見ると、落ち着いた学習態度で「学び」を進めている様子が伝わってくる。</p> <p>○コロナ禍の中で、机の位置をずらしたり、向きをかえたり工夫をしながら、安心安全に授業を進められている。</p> <p>○児童の発表を教師が十分受け止め、言葉を添えるなど教師と子どもの関係性が構築されていると感じた。</p> <p>○通知表が二期制となり、先生方の働き方改革も進んでいるようだ。</p> <p>○泉ヶ丘校区は、江津湖もあり環境に恵まれている。これからも、ぜひともその利点を生かして教育活動をすすめてほしい。</p>	